



■ グリニッチ便り ■

Japanese Gospel Church of Greenwich

No. 156, 2011年9月号

グリニッチ福音キリスト教会

船長は誰ですか？

牧会おたすけマン

黒田 朔

「船頭多くして、舟、山に登る」と言います。一艘の舟に船を操ろうとする船頭が何人も居れば船は混乱し、とんでもないところに行ってしまうというのです。ところで、私たちの人生を操っている「人生丸」の船長は誰でしょう。クリスチャンになる前は誰でも「世の中広しと言えども頼りうるはわが身一つ」と頑張ってきました。しかし、問題はクリスチャンになってからです。船長が一人増えるからです。いいえ、厳密には増えるのではなく、船長交代が起こります。つまり、クリスチャンになったとき、イエス・キリストを「人生丸」の船長としてお迎えしたはずですが、私たちは船長をしてきた長年の癖が出て、気がつくとき自分がかたがた舵取りをしています。

私たちはこの4月、長年お世話になったマキキ聖城キリスト教会を辞し、41年間の牧師生活から引退し、「助けが必要なところがあればどこにでもお助けに参ります」と「牧会おたすけマン」ミニストリーを始めました。「ところで先生、何をされるのですか。」「最初はフランス、パリの日本語プロテスタント教会、その次はニューヨークのグリニッチ福音教会のお手伝いです。」「すごいですね。」大抵の人はそこまで聞いて感心してしまいます。しかし、問題はその後です。来年の7月までに、お招きいただいているのは7箇所、24日間、その為に日本とカリフォルニアを2度行き来しなければなりません。先を考え

ると「これで大丈夫かな…」と心配になります。

しかし「牧会お助けマン」が船出したとき、確か船長はイエス様だったはずでした。いいえ、そのずっと前、高校生のときに私はイエス様を黒田人生丸の船長にお迎えしたのです。その結果、今、70歳を越えてグリニッチ福音教会で牧師としてお手伝いをし、色々な素敵な皆さんとの出会いを楽しみ、感謝の日々を過ごしています。私が心配しながら、綿密な計画を立てたのでこうなったのではありません。イエス船長の舵取りのお蔭です。とすれば、心配な場面に差し掛かる度に元船長が出てきて心配するのではなく、イエス船長のお手並みを拝見し、楽しめば良いのです。



さて、今、あなたの人生丸の船長はだれですか。案外、あなた自身がしっかり舵を握り、イエス様に「西風を吹かせてください。」「波をしずめてください。」と祈りで指図をしているかも知れません。

多くの民が来て言う。

「さあ、主の山、ヤコブの神の家の上ろう。

主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。

私たちはその小道を歩もう。」

(イザヤ 2:3) ■

「受洗の証し」 K. N. 姉 受洗日 2011年8月14日

昨日(2011年8月14日)、私は受洗をしました。3日後には、12年住んだこのNYの家を離れ、日本に帰国します。1週間前の日曜日には、自分が帰国前に洗礼を受けるなんて、思ってもいないことでした。それが最後の礼拝の日を迎えるまでの1週間、私は受洗について真剣に決断をするよう、ぐーっと迫られるような大きな力をずっと感じていました。だけど引越しの荷造りもある、日本に帰ってから一人暮らしが始まる息子の新生活の準備もしなければならぬ、牧師さんにだって前もって伝えなくちゃいけないのに、洗礼なんて無理、きつともう時間切れ・・・次々不安な気持ちに襲われ、頭が混乱して、忙しいのに何も手がつかず、心を静めて祈ることも難しく、泣きそうな気持ちで過ごしていました。受洗について今日こそ夫に話そうと、勇気を振り絞ってみたものの、言えずに飲み込んでしまった夜もありました。そして受洗の日の前夜、私はやっと夫に「日本に帰る前に洗礼を受けようと思うだけ

ど。」という一言を口に出すことができず、急に話を切り出されて動揺している夫に対して、私はこれまであまり話すことがなかった自分の信仰について、話をしました。それがそのまま私の証になるように思いますので、以前の自分を振り返りながら、ここに記します。

2005年の夏の終わりに初めてグリニッチ教会の礼拝に出席し、それ以来日曜日は教会に通うようになった私に、洗礼を勧められる機会が何度かありました。その度に私は拒絶し、洗礼を受けることを避けていました。神様への信頼は年々強くなっていったのは確かでしたが、洗礼についてはためらいがありました。バプテスマという儀式に、とても抵抗がありました。白いガウンを着て、大勢の人が見ている前で水に浸かる・・・というのはとても勇気のいることでした。ですが受洗前夜、私は洗礼の儀式というのは、形式ではなく、「私は誰でもない、イエスキリストを自分のボスとして従う」ということを表明することが大事

なのだ、とようやく思え、ガウンを着て水に浸かることはたいした問題ではないように思えました。

どうしてイエスキリストに従ってこうと決意したのか、それは何よりも、安心して生きていきたい、と強く願ったからです。教会に通うようになり、聖書のみことばに触れ、また聞くだけでなく行うとき、自分のうちにとっても平安があることを知りました。私が育った家は、心が安らぐ場所ではありませんでした。母は性格的にも難しく、主婦としてごく当たり前の家事をこなせなかったこともあり、いつも家族はイライラし、ストレスを抱えて生活していました。私は成長するにつれ、母のことを嫌悪し、軽蔑し、顔を合わせるとすぐに怒り、憎み、会うといつもヘトヘトに疲れてい



ました。私以外の家族や親戚も、母に対しては同じような思いを持っていました。でも、どんなに嫌悪しても自分の母だということが私を苦しめました。周りの友人のように母親をいたわり愛することができない自分は、人間としてとても大事なものが欠落しているように思えたり、皆から疎まれて母の存在を思うと自分が惨めになり、すぐに自己卑下をしたり自己嫌悪に陥り、殻に閉じこもって安心できる人間関係を築いていけない苦しさを持ち続けていました。これらの悪い思いはそのまま結婚後の夫婦関係、子育ての場面に引きずられ、つまずくことを繰り返しました。そんな私が夫の駐在について渡米し、グリニッチ教会に通うようになり、少しずつ自分の心が癒されていくようでした。

「あなたがたは、私に悪をはかりましたが、神はそれを良いことのための計らいとなさいました。」(創世記50:20)

まだ聖書を読み始めて間もない頃、このみことばが私の心を捉えました。これまでのつらかった私の生い立ちは、神様が良いことのためにご計画なさったことなのかもしれない・・・、そう思うと何かとても平安を感じました。また教会に集う兄弟姉妹との交わりは、これまでの人間関係とはまるで違う特別なもので、主を愛する人々の間にある強い絆に惹きつけられました。ゆっくりと信頼関係が生まれ、次第に頑なだった心を開くことができるようになり、自分の弱さもさらけ出すことができるよ

うになってきました。このままの自分ではないのかもしれない、という安心感が生まれ、このことはいつも不安定だった私の心に、落ち着きを与えてくれました。

私の決意を聞いて、夫は何も返事をくれませんでした。私がどこか違う世界に行ってしまうと不安になっているのだろうか・・・そう思った私は、「洗礼を受けたからといって、私はたぶん今までの私と変わらないよ。」と言いました。いくらみことばを聞いても、古い昔の自分にすぐに戻り、自分ではしたくないと思っていることをしてしまうことを良くわかっていました。すぐに義父に対して不満を抱き、夫に文句をぶつけてしまうこともそう・・・そんな自分に決別をして、夫の両親にもっと優しくできるようになりたい、でも自分の力ではできないとわかっているから神様の力が必要なのだと訴えました。日本に帰る前にもっと神様の力を与えてもらいたい、という強い願いが私にはありました。母のことも赦し、心から愛せるようになりたい、そして何よりも、夫ともっといい夫婦になりたいからなのだ、とも伝えました。

私が夫に一番伝えなかったこと、それは神様は本当にいるのだ、という強い確信でした。教会に通うようになり、徐々に確信を深めていった私でしたが、特に最後の1年は、神様を第一とすることを徹底的に教えられたような1年でした。今まで経験したことのない大きな重圧の中に身を置き、苦しい道を通りましたが、だからこそ

毎日神様に祈り、抛り頼む生活を送ることができました。与えられた任期を終え私に残ったものは、達成感でもなく、疲労感でもなく、ただ「神様はずっと私と共にいてくださった」という感謝の思いのみでした。

「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わ せてくださるのです。すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。」(ピリピ2:13-14)

「立ち返って静かにすれば、あなたがたは救われ、落ち着いて、信頼すれば、あなたがたは力を得る。」(イザヤ:30-15)

このみことばに、何度も支えられました。

結局その夜は、夫から承諾の返事はもらえず、いつの間にか寝てしまったのですが、翌朝もう1度尋ねたら、「自分の思うようにすればいい」と言ってくれ、その日の礼拝後、牧師さんに「洗礼を受けたいのですが」と、自分からきちんと伝えることができました。

ようやく神様に応答をすることができ、今とても平安な気持ちです。帰国を控え、これまでのアメリカでの12年は、これから待っている日本での生活のために準備されていたような、そんな気がしています。

「雄々しくあれ、心を強くせよ。すべて主を待ち望む者よ。」(詩篇31:24)

私が初めて神様から語りかけられたと感じた、このみことばをしっかりと心に刻み、日本でもしっかりと神様につながりたいと思います。■

■ 9月～12月の集会・行事予定 ■

※ 下記以外にも週の間に、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。

【定例集会】	【各種集会】	★ ハリソン 聖書を読む会
★ 日曜礼拝／10:00～11:30 メッセージは託児室でモニターを通して聞く事ができます。 礼拝後 グループ会／12:15 まで 大人、子供それぞれのクラスに分かれます	★ スタンフォード 聖書を読む会 隔週火曜 1:15pm ★ ハートフォード 聖書を読む会 月三回木曜 9:30am 月一回木曜 10:30am テイラー宅 月三木曜 7:00pm 男性聖研	★ マウントキスコ 聖書を読む会 毎週水曜 8:00pm 場所:平野宅 ★ハリソン・メンズ・バイブル・フェローシップ 第1,2,4木曜日 8:30pm 場所:荒木宅

<10月から冬にかけてのグリニッチ教会礼拝メッセンジャースケジュール>

10/9 黒田師	11/13 李 師 (プリンマー日本語教会)
10/16 中山妙子師 (リーベンゼラ宣教師)	11/20 中島師 (ラブジョイピース教会)
10/23 中山妙子師 (同上)	11/27 パーリング師 (SPLC)
10/30 ギデオンメッセージ (ギデオン聖書頒布協会)	12/04 栗栖師 (プリンストン日本語教会)
11/06 錦織師 (NJ日本語教会)	12/11 チョー師 (初代日本語教会)

● 12月4日 クリスマス親睦愛餐会

● 12月25日 クリスマスキャンドル礼拝



《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》 教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609, e-mail: jgclmi@verizon.net

